

海外で活躍できる人材育成

SGHに4高指定

県や国、補助金を予定

海外で活躍できる人材の育成を目指す高校「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」に、県は4校を指定した。活動経費として県や国は今年度、各校に1千万円～1600万円程度を補助する予定だ。

選ばれたのは大垣北(大垣市)、関(関市)の県立2校と岐阜聖徳学園(岐阜市)、高山西(高山市)の私立2校。指定期間は3月に文部科学省のSGHにも指定された大垣北が5年間、ほかの3校がそれぞれ3年間。

大垣北は東大や名大、岐阜大の大学院やイビデン、大垣共立銀行といった地元企業などと連携。カンボジアやベトナムで海外ファイ

ルドワークなどを実施する。

関も京大大学院や名大、南山大などと連携。地場産業の刃物を世界へ広める「関刃物産業連合会」の海外広報にも同行する予定。

岐阜聖徳学園は1年生の特進クラスが対象。フィリピンの高校生と台風など災害時の対応をテーマに研究をする。

高山西も1年生が対象。飛騨高山を世界に発信し、海外から飛騨への観光客の増加を目指す、英語ティベーターなどに取り組む。

古田肇知事は「刺激を積極的に採り入れ、高校の段階からグローバル人材を育てたい」と話している。